



森とイエP

快適な温熱環境目指す

一の橋建築住宅で構造見学会

【下川】森とイエPプロジェクトの住宅構造見学会が、2日午後1時から役場前集合、一の橋地区の建築現場で開かれた。建築中の住宅（建築主・仲埜公平さん）は木造2階建て、各階1室のみのコンパクト住宅で、1台のまきストープで温めた空気を住宅内部で循環させるなど、快適な室温環境を保つ工夫を試行している。

一の橋地区で建築中のコンパクトな住宅

「森とイエ」では、気候風土を理解した地元工務店と、優れた提案力を持つ札幌の建築家が協働して、地元木材を活用しながら満足度の高い住宅を創造している。現在は地元建設業（下川2社、名寄1社）3社と建築家4人がプロジェクトに参加している。本年度は町内一の橋と初の町外・天塩町で1棟ずつ建設が進んでいる。

一の橋の見学会では関係者も含め21人が参加した。

建設中の住宅は2階建て延べ床面積78平方メートル。周囲に豊かな森林が広がる。各階1部屋で1階を寄り合い場と

して開放し、2階をプライベートルームに活用する。まきストープ1台で屋内暖房を賄う計画で、ストープで温められた1階の空気を2階床下（1階天井裏）へ流れるようにし、1階も冷えた空気がたまりにくいような構造を目指している。さらにストープ熱で給湯用の水も温める仕組みを模索している。

建築家が住宅の説明の後「省エネは我慢することではなく、快適環境を作りやすくすること、建物を長く使うこと」など講話。参加者は住宅を見学しながら「森とイエ」の取り組みに理解を深めた。

10月上旬に完成見学会も予定している。

（小峰）